

組織をくくる



令和3年度釧路市在宅医療・介護連携推進事業

令和4年3月21日から公開

『続・桑楡の刻（1.5ショートムービー版）』

平成31年2月に初演した『桑楡の刻』は、人生の締めくくりの時期をどのように過ごしていくかをテーマに、治療を諦め穏やかに最期を迎えようとする主人公を中心にそれを取り巻く人々や、現在の医療介護体制などを判りやすく劇化し、多くの方々からの共感を頂きました。

その後、新型コロナウイルス感染症の影響が拡大し、続編の創作活動並びに上演に大きな制約が生じております。

様々な医療体制や支援方法が変化を遂げているこういう時だからこそ「自分らしく桑楡の刻を生きること」の大切さを、いま一度皆さんと考えるべく、ショートムービー仕立ての続編を制作し、在宅医療と介護連携に関する理解を深めます。

〈内容〉

前作の構成を引き継ぎ、主人公が『いえぐすり』と呼ばれる在宅支援へ踏み出したところから物語は始まります。20分程度のショートムービー形式で、それぞれ関わる視点から『家族編』『医療編』『本人編』の3作を制作し、動画サイトで無料配信致します。

『家族編』

寺山一郎は入院治療から在宅での治療へ切り替えた。しかし覚悟は決めたものの、家族はまだ迷っていた。妻・明菜は地域連携室の相談員と話す中で『家族会議』の大切さを知る。娘の花や、その夫となったケアマネージャーの風間、一郎の妹夫婦など、家族親戚を含めた相互の理解が大切であることを描く。

『医師編』

寺山一郎の娘、花が、訪問診療を続けている主治医を訪ねる。悩みを打ち明ける娘に、家族がどうしたいかではなく、本人がどうしたいかを考えるべき説く。医師が今まで経験した様々な患者の実例を聞き、背中を押される娘。

『本人編』

コロナ禍になり、在宅医療も変化を遂げて来た。入院生活では家族との触れ合いは少ないが、在宅であれば日々を共に出来る。一方で病院にいないということでの弊害も少なからずある。その部分をリモートでの診療や投薬、様々な医療体制を経験することで『いえぐすり』の本当の良さに気付いていく。

「脚本・構成／片桐茂貴(釧路演劇協議会会長)」

視聴をご希望される方は、動画視聴のためのURLをご案内しますので、申込みフォームからお申込みください。

